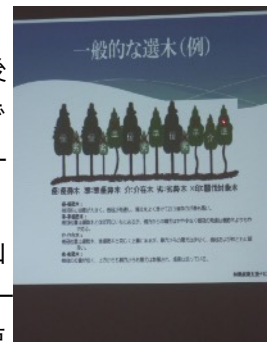




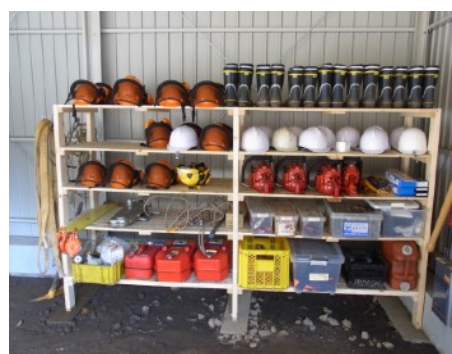
2月から始まった自伐型林業研修に参加してきました。4ヶ月で4回（一泊二日）全8日間の研修です。今回は伐倒と搬出について二日間の研修でした。第一回の「チェーンソー」については少し覚えがあるので2回目からの参加です。会場は埼玉県飯能市、飯能駅から車で30分ほどの山間にある「自動ドア技術学院」の研修センターと裏山で行いました。参加者は全国から集まった16名（女性4名）、



皆さんそれぞれに思いがあり（志）熱心に学ぶことが出来る研修でした。初日は雨のために山に入ることが出来なかったため、室内で講義（経験談や林業の現状、木の選定方法など）が行われ、いきなり山に入るよりは木を見る視点が出来て良かったと思います。午後からは雨もやんだので、森の散歩・と言ってもかなり急な斜面で、立っただけでやっとの斜面のところを木を見ながら移動するのはかなりきつい散歩でした。グループの中には、下まで滑り落ちる人もいて、靴などの装備も重要です。二日目は天気も良く、いよいよ伐倒（木を倒して、造材、搬出）の作業を行いました。急斜面の山林で木の選定（今回は腐り、曲がり、二股などの不必要な木から）、伐倒の準備（ロープで牽引など）チェーンソーでの作業など、準備から木を倒すまでには段取りが重要です。今回の研修では全員が一本伐倒するのが目標だったので、一人1人の技能に応じてインストラクターが丁寧に指導していただきました。それに加えてチェーンソーでの作業には細心の注意が必要です。また、木が倒れるときにはその方向や上部にある枝などこれも危険です。



林業に必要な最低の装備（安全重視）用具、使用方法など多くの学びがありました。奥が深い作業です。兎に角健康で体力が無いと出来ない仕事です。次回は4月下旬に、森からの丸太搬出作業を来ないます。 佐久の森を整備するのに役立つ技術を身につけます。 (2017.03.30)

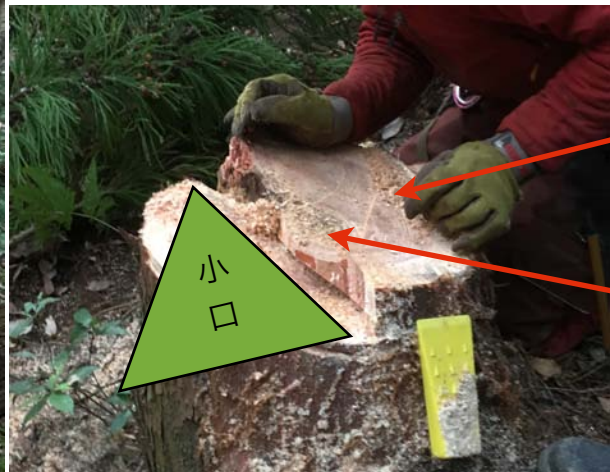


桧の伐倒作業（自伐型林業研修にて）



作業現場は急斜面でこの木を上部に倒すには木が密集してかかり木（伐採した木が隣の木に寄りかかった状況）に危険なので、横方向に倒す準備（ロープで牽引、小口を作る、反対側からツルを切る）をしているところ。斜面の下で枝払い作業中なので、待機。この木は下部が曲がって、斜面下方向に腐りがある。重心が下に傾いている状況。斜面下の安全確認が出来たので小口（伐倒方向の切り込み）を開いて、反対側のつるを切り、くさびを打ち込み、最後に追い口を切断（チェーンソーで斜めに切る）するとゆっくりと木は倒れる。しかし、目指す方向では無く、やはり25°ほど斜面下方向（右）に倒れた。原因は次の写真

で見ると木の芯がずれていて重心が傾いていること



と、斜面下側の腐りで、木が暴れた（思う方向に倒れない）ため。講師ふたりから、このような木を倒す場合には細心の注意が必要なことと、事故が起きる原因の多くはこのような木（腐り、曲がり）であると説明を受けた。

左の写真を見ていただくと赤い矢印が目指した方向で、緑の矢印が実際に倒れた位置。根元から10mほど下方に飛んでいることが分かるように、大木が切った瞬間に飛んでくるので、

危険！木の高さを足すと、40m先まで影響が出る。倒す前には全体の安全確認が必要。